

## 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>		
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	○	月1回の理念の確認ではなく、苑内にいつでも確認できるように見える位置に掲示し職員の意識づけをしたい。
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる</p>		
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>		
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進会議などで、地区の高齢者情報を伺っている。	○	地区の方がもっと気軽に来て頂けるよう啓発に取り組み、地域の一員として馴染めるように努力したい。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の意義を勉強会でおこない、職員全員が自己評価に取り組んでいる。	○	評価結果が出たらスタッフミーティングで改善点を話しあっていきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、ご家族・地域の方からのご意見を貰う機会を設けており、また行事報告や予定をお知らせしている。	○	運営推進会議で出された意見はスタッフミーティングで報告し、検討している。今後は管理者・介護支援専門員だけでなく介護職員の参加を行い理解を深めていきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護相談員の受け入れなどで介護情報の収集を行ったり、市町村担当者には役所内で事業所状況報告をしている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者・職員共に権利擁護について学んでいく段階であり内容については知識不足である。	○	地域福祉権利擁護事業や成年後見制度についての研修会参加、当事業所での勉強会を実施し知識向上に努めた
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会やカンファレンスにおいて話し合い、虐待防止に努めている。	○	高齢者虐待防止関連法についての勉強会を行い、さらに知識を深めていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書・重要事項説明書によりご家族への十分な説明を行い同意・署名・捺印を頂いている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者・職員に、利用者やご家族がいつでも意見や不満が言える受け入れ体制を取っており、苑内には外部への苦情連絡方法など掲示している。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時、家族懇談会、2ヶ月に一度のふぁみりー通信などで、生活状況・健康状況・行事等を報告している。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時、家族懇談会、運営推進会議、電話等いつでも意見・不満・苦情を聞く体制を取っており、玄関に重要説明書・苑内に苦情相談窓口が見えるよう掲示して責任者の明記をしている。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営者や管理者は、職員がミーティングで意見を言えるようにしており、また運営者の不定期な事業所訪問で職員の意見や提案を聞いている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	勤務調整については、病院受診などで職員不足にならないよう考慮し、シフト変更時には職員の了解を得たうえで、状況変化に対応できるよう調整をしている。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	全職員に十分な引継ぎを行い、利用者のダメージを最小限に抑えるよう配慮している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○人権の尊重	法人の代表及び管理者は職員の募集・採用にあつたては性別や年齢を理由に対象者からは排除しないようにしている。又事業所で働く職員についてもその能力を発揮して生き生きと勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。		
	法人の代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる。			
20	○人権教育・啓発活動	専門講師を招き年2～3回人権学習会をおこない、自己啓発・自己覚知をしている。		
21	○職員を育てる取り組み	介護職の知識向上のため、職員一人一人の個性・能力に合った勉強会をおこなったり、年数を満たす職員はステップアップの研修に参加したり、スキルアップを心がけ実施している。	○	全職員が順次研修参加ができるよう取り込んでいきたい。
	運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている			
22	○同業者との交流を通じた向上	市主催の勉強会や研修に参加することで、地域同業者との意見交換をしたり情報収集ができ、サービスの質の向上を図っている。	○	地域同業者との相互訪問については系列事業所だけに留まっており、多くの同業者との交流を図っていきたい。
	運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている			
23	○職員のストレス軽減に向けた取り組み	希望休を月に3日もうけてあり、有給休暇も取りやすいよう配慮しており、親睦会を立ち上げて会社負担も行き、職員の交流を自由にしてもらっている。		
24	○向上心を持って働き続けるための取り組み	不定期ではあるが事業所訪問を頻繁に行い、各々の勤務状況を把握し、職員の意見をしっかりと聞いている。また、職員間で問題があった時はその都度話し合いの場を作り、解決していきしこりが残らないようしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
25	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	寄り添う介護を目指しており、入居者の気持ち(求めていること・不安に思っていること)を職員がよく聞いて把握し、軽減するよう努力している。	
26	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前には利用者・ご家族と十分な話し合いをおこない、問題点の把握につとめている。	
27	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた人の目だけではなく、職員全員で協議し支援策を考慮している。	
28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前には本人・ご家族に体験入居を勧めており、体験で納得された上で、入居契約を行いサービス利用開始としている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者一人ひとりの生活歴をしっかりと把握し、情報収集をおこない一緒に笑ったり、泣いたり、怒ったりしながらコミュニケーションを図っている。		
30	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の来訪時には、少しでも話しあう時間をつくるようにしており心配事、問題点の解消に努めると共に、ご家族の状況も把握したうえで信頼関係を築き、支援していくよう努めている。	○	職員は入居者とは日常的にコミュニケーションが取れるが、ご家族とは勤務の関係上全職員が係わることが限られてくるので、コミュニケーションの充実を図りたい。
31	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	定期的に来苑されるご家族も多いが、2ヶ月に一度のふあみり一通信を通して、入居者の日々の状況をお知らせし、外出・外泊・面会時間の制限をせず、入居者の要望があればいつでも電話が出来るよう、また外部からの電話も自由に受けている。		
32	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域のいきいきサロンに参加することで、馴染みの関係が途切れないようにし、来訪者の受け入れや、入居者が以前住まわれていた場所を尋ねるなど支援している。	○	馴染みの場所との関係が途切れないように支援していきたい。
33	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者同士の関係や感情に配慮し、孤立することがないようにレクリエーションの声かけや外出レクリエーションなど企画している。	○	個性の強い入居者もあり難しいときもあるが、お互いを思いやる気持ちを大事にしたい。
34	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービス終了後も相談があれば遠慮なく連絡頂くようご本人・ご家族に伝えている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
1. 一人ひとりの把握			
35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族から生活歴を伺い、日々の生活の中からお本人の希望や、ご本人が話される暮らし・趣味など伺って思いを把握し、対応している。	
36	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時・入居後の面談で、生活歴や本人の思い・意見を聞き申し送り時やミーティング時に情報の共有、経過の把握に努めている。	
37	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	毎日バイタルチェックを行うことで身体面の把握をし、日中・夜間を通して入居者の状態把握をおこない記録・申し送りなどで現状把握に努めている。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎月のミーティングで担当職員が問題点・検討事項をあげ、全職員で個別にカンファレンスをおこないケアプランを作成している。ご家族からは懇談会・面接の際に希望・要望を伺っている。	
39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	担当者がモニタリング表にプランが実施できたか毎日確認をしており、入居者の現状に応じたケアプランを3ヶ月に一度見直し、状態変化が見られた場合は、ご本人・ご家族・主治医等に相談をおこない介護計画の見直しをしている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
40	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	夜間帯の個別記録は十分記録されているが、日中の個別ケアの記録が充実していない。	○	日々の様子やケアの実践・結果、気づき等を全職員が記録し、少しの変化も見逃さないようにして介護計画に活かし、ケアの質の向上に努力したい。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人・ご家族の希望に応じて通院介助・理髪店への送迎・地区公民館でのいきいきサロンへの参加を支援している。また役所等の手続き代行なども行っている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
42	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域で行われる行事への参加・ボランティアの受け入れ・他施設の行事参加などをおこない、協力関係に努めている。		
43	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	ご本人・ご家族からの要望があれば、他のサービスを利用できるよう支援している。		
44	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	毎回運営推進会議に地域包括支援センターの担当者に参加して頂き、助言を得たり相談したりしている。		
45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・ご家族と相談の上、入居以前に受診されている医院・病院がある場合など、本人に一番望ましい受診方法で支援しており、かかりつけ医が無い場合は説明を行ったうえで、週1度の嘱託医による往診を勧めている。		



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
46	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
47	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
48	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
49	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	<p>看取りについての勉強会を行うことにより、職員全員で方針の共有を図っていきたい。</p>
50	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
51	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	記録等は入居者の目に付くところに置かず、個人情報に関しても事務所内に保管し来客に漏れないような対応をしている。	
53	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	生活・日課のあらゆる場面において、入居者の希望・思いを傾聴し納得していただけるよう努めている。	
54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合を優先することではなく、入居者のペースに合わせる対応を心がけている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
55	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	何年も前から利用しているいきつけの美容室へ送迎し、本人が望む身だしなみやオシャレができるように、また月に1度美容師が来苑し散髪をしていただいている。	
56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好みの献立を聞いて参考にしたり、包丁が使える方は職員が付き添って下準備を手伝って頂いたり、味見をしてもらったり、職員と一緒に食事を摂っている。また、食後の片づけを手伝える方にはお願いしている。	
57	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	入居者の状況に合わせて日常的に楽しめるように努力しており、個人的な物については、個人負担にて自由に買ってもらったり、ご家族に持参していただいている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
58	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表にて確認をしてトイレ誘導をおこない、パット内失禁を減らしトイレでの排泄をしていただけるよう努力している。	
59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	出来るだけ入居者の希望に添えるように努力しており、楽しんで入浴が出来るように数種類の入浴剤を使い分けたりしている。	
60	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	自分の睡眠スタイルを大切に、自由にさせていただいている。	
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の生活歴を把握し、日頃からご本人の希望を伺いできるだけ添えるよう努力している。	
62	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	飲み物やお菓子が欲しい入居者と一緒に買い物へ出かけたり、タバコや染髪剤が欲しい方に、買いに行っていたりしている。	
63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日には出来るだけ散歩や、外出が出来るよう配慮している。	
64	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	年間行事予定を組み、初詣・温泉・花見・買い物・紅葉めぐりなどの計画をたて実行している。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望があれば常時電話できるよう職員が対応している。		
66	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問者に現状報告をし自由に話せる場所(居室)を設定している。		
(4)安心と安全を支える支援				
67	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての勉強会をおこない、職員の意識づけをし身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は夜勤者が一人になるため20時に施錠をおこなっているが、日中は施錠しておらず誰でも自由に入出りできるようにしている。居室の施錠は入居者が行うことはあるが、職員が施錠を行うことはない。		
69	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	オープンキッチンからの見守り、職員の見守りにより入居者の所在と様子を把握し、入居者が外に出られた場合は必ず職員が付き添っている。また夜間は入居者の睡眠を妨げないように気を配り、一時間毎の巡回をおこなっている。		
70	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	保管が必要なものに関しては、ミーティング時に管理の必要性を話し合い、必要な場合は入居者と管理者が話し合い理解・了解を得た上で管理している。		
71	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ミーティングや勉強会において事故防止についての話し合いをし、個別のケアカンファレンスをおこない事故防止に取り組んでいる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時の連絡体制はできているが、急変や事故発生時の応急手当・初期対応に関しての訓練は行っていない。	○	年間行事予定として、消防署の指導による救命に必要な応急処置・心肺蘇生法・AED操作方法等の訓練を行っていきたい。
73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	各入居者のリスクについてはミーティング時に話し合い、面会時等にご家族に予想されるリスクの説明を行い、その方に合った対応をしている。		
74	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	各入居者のリスクについてはミーティング時に話し合い、面会時等にご家族に予想されるリスクの説明を行い、その方に合った対応をしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	起床時のバイタルチェックに加え、血圧の高い時には夕方の再検を行い、体調変化時は連絡帳・申し送り等で全職員に伝達している。		
76	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が把握できるよう服薬説明書をファイルしており、用法・容量・変更の確認に日々努めている。		
77	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎日のチェック表を基に便秘気味の入居者には、便秘薬の処方や腹部マッサージ等を行っている。また献立についても食物繊維の多いメニューや、牛乳・ヨーグルトを摂取することで便秘予防に取り組んでいる。		
78	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後に口腔ケアへの誘導を必ず行い、チェック表に記載することで確認している。義歯の方は、夕食後に洗浄剤に浸すよう声掛けをしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員が作成した献立を管理栄養士がチェックし、栄養バランスの指導を受けている。貧血気味の入居者が多いので鉄剤を多く摂取できるように献立に工夫している。水分に関しては、十分な摂取が出来ていない。	○	水分チェックを行っていないので、1日の水分摂取量の確認を行いたい。(3月より実施予定)
80	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	外出後は手洗い・うがいの励行を行い、来訪者にもインフルエンザ予防のため手洗い・マスクの着用をお願いしている。		
81	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	1日の調理終了後はまな板・布巾・手拭等をハイター消毒し、まな板も野菜用と肉用に分けている。食材もできるだけ新鮮なものを使用するよう努力している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
82	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関はスロープになっており、車椅子の方でも移動し易い工夫がなされている。また建物周囲には鉢植えや小さな畑・芝生を植え親しみ易いように努力している。		
83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関・共有スペースには季節の花や飾りを置き、入居者が季節感を忘れないように工夫している。オープンキッチンからは見守りや話をしながら調理が出来、リビングの大きな窓からは近隣が見え、草花など季節感が味わえる。		
84	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仲良しの入居者が過ごせるように、ホール内3か所にソファを置きくつろぎの場所を作っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅から入居される際には、馴染みのタンスや仏壇など持ってきて頂き、居心地の良い部屋作りを行っている。		
86	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	空調管理はその日の状態により、小まめな温度調節を行っている。冷房や暖房が長時間入るため、定期的な換気に気をつけている。		
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
87	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	苑内には手摺が設置されており、手摺を使った歩行訓練・立位訓練・下肢訓練などを行うことで残存能力を活かす自立支援を行っている。また、自発的に散歩に出られる入居者には職員が付き添いを行っている。		
88	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	調理の手伝い・庭の手入れ・洗濯物の片付けなど、入居者の出来る範囲の手伝いをして頂くことで自立支援を行っている。		
89	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関・裏庭・駐車場には、花や野菜が植えられており、水やりや収穫を入居者と一緒に行っている。また手作りのベランダでは夏祭りのバーベキューや、餅つきなど地域の方も参加された。		

## V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
96	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない



項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように
		②数日に1回程度
		<input type="radio"/> ③たまに
		④ほとんどない
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	①大いに増えている
		<input type="radio"/> ②少しずつ増えている
		③あまり増えていない
		④全くいない
100	職員は、生き活きと働けている	①ほぼ全ての職員が
		<input type="radio"/> ②職員の2/3くらいが
		③職員の1/3くらいが
		④ほとんどいない
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
		③利用者の1/3くらいが
		④ほとんどいない
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての家族等が
		<input type="radio"/> ②家族等の2/3くらいが
		③家族等の1/3くらいが
		④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(

当たり前ではあるが、日常的な生活動作のなかでのリハビリを重視し、個々の持っている残存機能が活かせる自立支援を行うことを目標としている。